

生理用品の無償提供個数等調査結果について(令和5年7月実施)

令和5年7月に県立中学校(2校)、県立高等学校(121校)に対して生理用品の無償提供に関する次の1～4について調査を行いました。

1 利用個数

令和5年度 調査	令和5年 4月～6月	令和5年 1月～3月
非対面式	7401	5949
対面式	1618	
合計	9019	5949

令和4年度 調査	令和4年 4月～6月	令和4年 1月～3月
非対面式	5889	3852
対面式	1583	
合計	7472	3852

2 非対面式提供場所

	トイレ(洗面 所・個室)	更衣室	保健室	廊下	その他	合計
該当校数(校)	64	16	11	18	14	123
割合(%)	52	13	9	14.6	11.4	100

3 対面式提供場所

	保健室	年次室、 保健室	図書準備室	保健室、 学年室	保健室、 図書室	合計
該当校数(校)	119	1	1	1	1	123
割合(%)	96.8	0.8	0.8	0.8	0.8	100

4 申告方法

	カード	二次元 バーコード	直接申し出	その他(併用、 任意申し出等)	合計
該当校数(校)	45	17	41	20	123
割合(%)	36.6	13.8	33.3	16.3	100

【考察】【考察(各学校からの意見等を参考)】

- ・対面方式、非対面方式共に、多くの利用状況があり、生理用品の無償提供は必要としている生徒の支援につながっている。
- ・養護教諭が些細な変化などを見極め、少しでも確認する必要がある場合は、スクールカウンセラー等につなげることができる体制づくりを行っている学校が見られた。
- ・非対面方式では無記名での使用が多く、急に必要になった生徒が気兼ねなく利用している状況にあるが、非対面、無記名での使用が多い学校については、非対面方式の継続を検討する学校が複数見られたため改めて無償提供の意味等に関する周知が必要である。
- ・任意での記名による申請は多くないが、福祉的な支援につなげる手立ての一つとして対面方式と並行して継続していく必要がある。
- ・予算面に関する意見が多く見られたため、改めて対応に関する周知が必要である。